Open Scienceへのウォーミングアップ
-研究者と協働するOpen Accessの取り組み-

Japan Open Science Summit 2019
C4 機関リポジトリにおける研究データ公開に向けた取り組み
2019年5月28日14：30-16：00　中会議場A　（2F)

沖縄科学技術大学院大学図書館
上原　藤子

OIST

OKINAWA INSTITUTE OF SCIENCE AND TECHNOLOGY GRADUATE UNIVERSITY
沖縄科学技術大学院大学

CC BY NC ND

発表内容

1. 沖縄科学技術大学院大学の紹介
   (大学/図書館)

2. オープンサイエンスの概念

3. オープンアクセス方針
   （概要/OISTIR登録ライセンス）

4. 研究者と協働する方法
   （本学のオープンアクセスの基本姿勢/OISTIR登録のためのワークフロー/オープンアクセス率/
   オープンアクセスリポート/OISTIR実績）

5. OISTIR導入後の変化

6. 今後の課題

1．沖縄科学技術大学院大学（OIST）の紹介

設立：2011年11月学園設立　（5年一貫制の博士課程を置く大学院大学）
2012年9月博士課程開設
2018年2月第1回学位授与式

特徴：

- 公用語：英語
- 国際性：学生と教員の半数以上は外国人
- 学際性：分野の壁を超えた共同研究や交流が推奨されている。
- 教育：1名の教員に対して2名の学生比率
- 研究助成金：国からの財政支援を受けながら、革新的なイニシアチブをとるべく自主性と運営の柔軟性が確保されている。
- 研究ユニット数：61ユニット（2019年3月末現在）

1. 沖縄科学技術大学院大学の紹介
図書館

- コレクション：資料費の99%は電子ジャーナル、電子ブック又はデータベース
- アクセス：セキュリティーカード使用で24時間使用可
- 座席数：26席（キャレル8席含む）
- 職員数：館長1名（教員担当学監が兼任）、職員3名、派遣職員1名
- リポジトリ担当：館長以外の全職員が兼任

2. オープンサイエンスの概念

内閣府国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会
「我が国におけるオープンサイエンス推進のあり方について」

オープンサイエンスは、オープンアクセスとオープンデータを含む概念であり、オープン化の対象として、研究成果や新たな知見データを包容し、イノベーション創出に繋がる概念として捉えられている。

オープンアクセスをしっかりやっていくことがオープンサイエンスの成功につながるのでは？

出典：内閣府国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会「国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会」報告書
https://www8.cao.go.jp/cstp/sonota/openscience/150330_openscience_summary.pdf

3. オープンアクセス方針
概要

定義：「オープンアクセス」とは登録された成果物を対価なしに研究・学問のために制限なく利用できるよう、一般に公開することである。

方法：

1)OISTIRで公開
2)サブジェクトリポジトリで公開
3) APCを支払い、出版社サイトで公開

OISTIRではリンクのみ登録

コンテンツ内容

登録義務:
- 学術論文
- 博士論文

任意登録:
- 2017年1月1日以前に出版された論文
- 図書又は図書の章
- 学術会議資料
- セミナー資料
- 本学出版物

範囲:
2017年1月1日又はそれ以降に出版されたもの

OIST Institutional Repository

JAIRO Cloud

オープンアクセスになっていない研究成果情報

登録者:
- 本学で雇用されている者
- JSPSフェロー

版:
①出版社版
②①が登録できない場合、著者最終稿

3. オープンアクセス方針
OISTIR登録ライセンス

全ての著者は在職中に１度限りの包括ライセンスである「**OISTIR登録ライセンス**」に押印又は署名し図書館へ２部提出すること。

☑ 2017年１月１日又はそれ以降に出版される全ての成果物をOISTIRに登録することに同意する。

↓

各論文ごとに著者から申請や承諾を得る必要がない。

☑ 対象成果物に共著者がいる場合、登録者は当該成果物を OISTIR に登録する前に、運用指針に従ってあらかじめ学外共著者による承認を得る責任があることを認識し、これに同意するものとする。

↓

学外共著者への連絡は学内著者が行う。

4. 研究者と協働する方法
本学のオープンアクセスの基本姿勢

オープンアクセスを実行するには著者と図書館員が連携して必要なアクションを起こさなくていけない。

著者はオープンアクセスのための義務を果たす

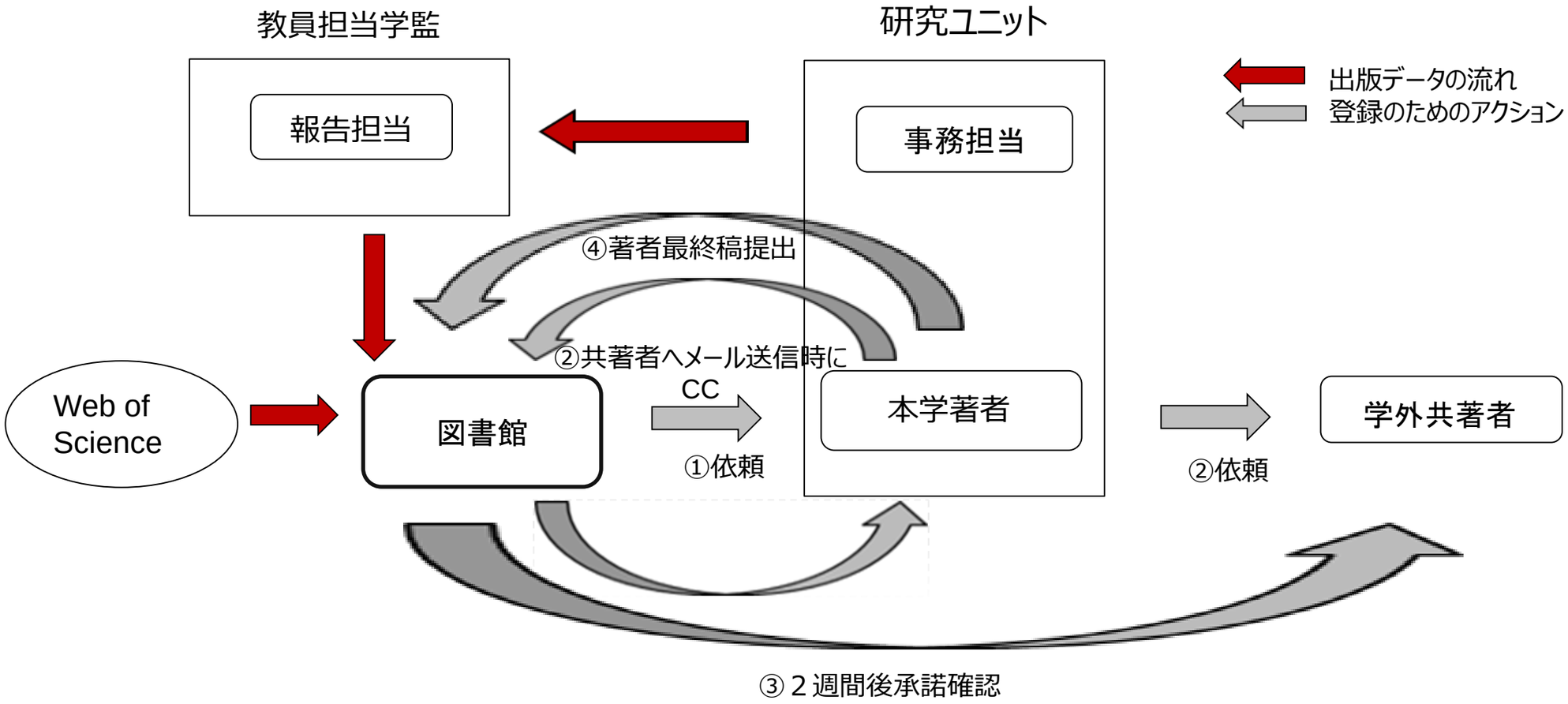
- 登録ライセンスの提出
- 学外共著者への論文登録の連絡
- 必要な論文の版（主に著者最終稿）の提出

図書館はオープンアクセスのために必要な支援を行う

- 著者に代わって著作権・アーカイビングポリシーの確認
- 成果物のOISTIRへの登録
- リポジトリセミナーの開催
- 教員や事務担当者とのミーティング
- オープンアクセスリポートの作成・報告

4. 研究者と協働する方法
OISTIR登録のためのワークフロー

CCBYなしの学術論文や著者最終稿をリポジトリ登録する場合



4．研究者と協働する方法
オープンアクセス率

教員評価の指標としてオープンアクセス率が採用されることが教授会で決定

- 登録ライセンス提出確認
- オープンアクセス率の提示

オープンアクセス率：オープンアクセス対象論文がOISTIRで公開されたかという比率

$$\frac{\text{OISTIRで公開された論文数}}{\text{オープンアクセス対象論文数}}$$

参考程度の指標であるが、**教員評価の指標として採用されたのは画期的**

教員間にオープンアクセスの重要性の意識を高めるのに役立っている

4. 研究者と協働する方法
オープンアクセスリポート

教員の業績評価

オープンアクセスリポート（四半期ごと）

ユニット	出版論文数	オープンアクセス対象ではない論文数	オープンアクセス対象論文数	OISTIRで公開された論文数	著者のアクションがないためにまオープンアクセスになっていない論文数	オープンアクセス率
A ユニット	10	-	10	10	-	100%
B ユニット	10	-	10	5	5	50%
C ユニット	10	2	8	6	2	75%

登録状況レポート（四半期ごと）

ユニット	論文タイトル	本学著者	現状	著者からアクションが必要なこと	公開状況	必要な版	登録ライセンス提出	URL	Email 送信日
Bユニット	論文A	著者A	著者のアクション待ち	学外著者へのメール送信、著者最終稿の提出	未公開	著者最終稿	○	******	06/25/18
		著者B					×		
		著者C					○		

教員業績評価の指標として採用された後からは、オープンアクセスリポートに対する教員の対応に大きな変化が見られた。

4. 研究者と協働する方法
OISTIR実績

全研究ユニットのオープンアクセス状況

種類		2017年 (1月-12月)	2018年 (1月-6月)
出版論文数	A	253	140
オープンアクセス対象ではない論文数	B	22	27
オープンアクセス対象論文数	C	231　（A−B)	113
OISTIRで公開された論文数	D	208	104
著者のアクションがないためにまオープンアクセスになっていない論文数	E	23	11
オープンアクセス率	F	90%（D÷C)	92%

資料タイプ別公開数　（2019年4月末）

タイプ	件数	比率
学術論文	304	90%
博士論文	27	8%
会議発表論文	6	2%
合計	337	100%

本文あり：93.77%

5. OISTIR導入後の変化

項目	導入前	導入後
出版、論文、研究データの問い合わせ	ほとんどなかった	増えた
教員や研究ユニット事務の方とのミーティング	ほとんどなかった	新任教員は全員、それ以外の方も積極的に対応している
研究者のOAに対する意識	元々好意的	OA意識がさらに高まった
日本の著作権の理解	低い	徐々に理解されつつある
教員の登録ライセンス提出率	–	100%（61名）
他部署との連携	事務部門やIT部門のみ	新たに大学院研究科やリーガルオフィスとの連携ができた
図書館員の本学の研究内容に関する理解	低かった	以前より深まった

これまで研究者と図書館の連携はほとんどなかったが、リポジトリ業務として定着してきた。
今後学内で研究データを取り扱う際にプラスになる環境作りができた

6. 今後の課題

オープンアクセス

- 登録作業の効率アップ
- オープンアクセス率算出と通知方法の簡素化
- 著者最終稿の学内での回収方法の確立
- 図書館員のリポジトリ業務の適正な評価

オープンサイエンス

- JAIRO Cloudバージョンアップへの対応
- 研究データに対する知識の蓄積
- 研究支援部署との連携
- データアーキビストの採用

ご清聴ありがとうございました